

(DCとは、Defined Contribution Plan (確定拠出年金) の略です。)

平成30年7月26日

今回のテーマ

●運用商品とその選び方②

今回は、運用商品に関する情報として、DC法の改正と元本確保型商品について解説しました。今回は運用商品の選び方についてです。

●運用商品の選び方

では、DCで実際に、どのような運用商品を選べば良いのでしょうか？これは頻りに質問を受ける内容ですが、正解はなく、**個々の資産形成状況やライフプランに適した運用商品選択を行うこととなります。**厚生労働省による法令解釈通知には、指定運用方法（いわゆるデフォルト）のくだりになりますが、次の記載があります。

「個々の加入者が、自身の資産形成状況やライフプラン等に適した運用の方法が選択されているかどうかを確認し、自身に適さない運用の方法であれば他の運用の方法を選択すべきであること」

つまり、DCでの運用は、個人のライフプランの中で、保有する他の資産も合わせて、資産運用を考える必要があります。**DC以外の資産がほとんど預貯金という方は、DCでは投信信託でリターンを狙うことが可能と考えられます。**さらに、DCの目的が高齢期における所得の確保であるため、原則として受取は60歳以降（60歳前の中途引出しは、原則として不可）と、DCは長期の運用となります。したがって、**教育資金等の短期の積立は、非課税優遇が5年のNISAや20年のつみたてNISAを利用することで、積立目的・期間を分けて運用可能です。**

また、当初想定した、就職・結婚・出産・子供の就学・転職・リタイア等のライフプランが変わるたびに、資産運用プラン、つまりDCで選ぶ運用商品も見直す必要が出てきます。

DCでは、複数の運用商品が揃えられていて、運用の指図により、毎月の掛金を1つまたは複数の運用商品に割当てる（掛金の配分）ことや、運用商品の変更を行う（運用商品の預替え）ことができるため、**1度に1運用商品だけでなく、複数の運用商品を購入することが可能です。**

■当資料は確定拠出年金の運営管理機関である岡三証券が取扱う確定拠出年金向け商品を紹介するためのものであり、金融商品取引法（昭和23年法第25条）に基づく開示資料ではありません。■当資料は、委託会社の運用データに基づいて編集・作成されたものですが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託は、株式など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクもあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって元本および運用成果が保証されているものではありません。投資信託の運用による損益は、購入者に帰属します。■保険商品は、債券など値動きのある証券等に投資しますので、所定の解約控除（市場価格調整）を適用することがあります。この場合、控除後の解約払戻金が元本（払込保険料相当額）を下回ることがあります。

さらに、一般の投資信託の購入時には、販売手数料がかかりますが、**DC制度で投信信託が購入される際に、販売手数料のかかるものはほとんどありません。**また、DCでは、**運用の指図の変更により、運用商品の一部または全部を手数料なしで他の運用商品に預替えられます。**つまり、投資の初心者でも、投資信託を売買しやすい環境であると言えます。

なお、前回ご説明したとおり、高齢期における所得の確保を目的に長期的に運用を行う際、元本確保型商品は物価上昇に伴い実質価値を毀損する可能性があり、また、分散投資を行えば、元本確保型商品でなくても、リスクを抑えた運用を行うことが可能と考えられます。弊社では、預金・保険から投信信託まで、自社系列に捕らわれず、多彩な運用商品を厳選し、取揃えています。

どのタイミングで資産運用を見直していくか、忘れずに実施していくのは難しい面もありますが、ご自身の誕生日や年末・年始等、覚えやすい時期に定期的に行うのはいかがでしょうか？毎年5月に1年間の運用成績等が記載された「残高のお知らせ」がお手元に届きますので、この機会の利用も考えられます。その上で、ご自身のライフプランと資産運用が合わなくなっていれば、運用の指図の変更により、掛金の配分変更や運用商品の預替えを行いましょ。手続は、電話でも、WEB（時間を問わず）でも、可能です。

なお、ID・パスワードを忘れた場合は、WEB画面から再発行が可能です。スマートフォンからも手続可能です。

(WEBログイン画面：<https://www.nrkn.co.jp/rk/login.html>)

QRコード



NRKフリーダイヤル
00777-89-401

【受付時間】平日9:00-20:00
(土・日・祝日を除く)